

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 始良・伊佐地域振興局農政普及課

課題名① 地域の特性を生かした園芸産地づくり(根深ねぎ)(始良)						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5	1		⑥どの作物も課題となっているため良いと取組と思った。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	1		⑥伊佐を中心に霧島でも新規にネギを取り組んでいる人がいるので良いと思った。	
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して取り組まれていたか	4	1	1		
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であったか	4	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	1	1		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	3	1		
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	3	1		
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	2			
全体的な意見・提言等					②地域への課題に対する波及性はどの程度か？ ③遮熱シートなどの増加資材費、労働時間等を数値化すると理解しやすいと思う。 ④農作物は概ね露地栽培が主であることから平張も検討が急務と思われる。また、熊本県他の産地、先進地視察も含め良品質の栽培を求める。 ⑤新たな取り組み、高温対策など課題はたくさんあると思いますが、これからも生産者の方々と密に連絡を取りながら、根深ねぎにも若手の生産者が増えていってもらえたらいいなと思いました。 ⑥標高が高めな地域も多い土地なので、確立して安定した農家が良いと思った。霧島ネオファーマーズにもネギクラブがあるのでお願いします。	②山岳地裾野(栗野岳、霧島山系等)の牧草地などを活用した産地化をイメージしている。 ③了解した。 ④国内有数のねぎ産地である大分県がすでに九重山麓の大規模な産地化を果たしており、遮熱シートの活用も普及段階に入っているため、状況を調査したいところである。 ⑤⑥夏秋期の高温が常態化しつつあり、従来の対応では安定生産が困難になっている。耐暑性品種も限界を感じており、地温を物理的に抑えたり、ほ場の標高を上げる、などの新たな産地化に向けた取り組みを模索する必要があると感じている。まずはその効果を示すための実証を行っていく。

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 始良・伊佐地域振興局農政普及課

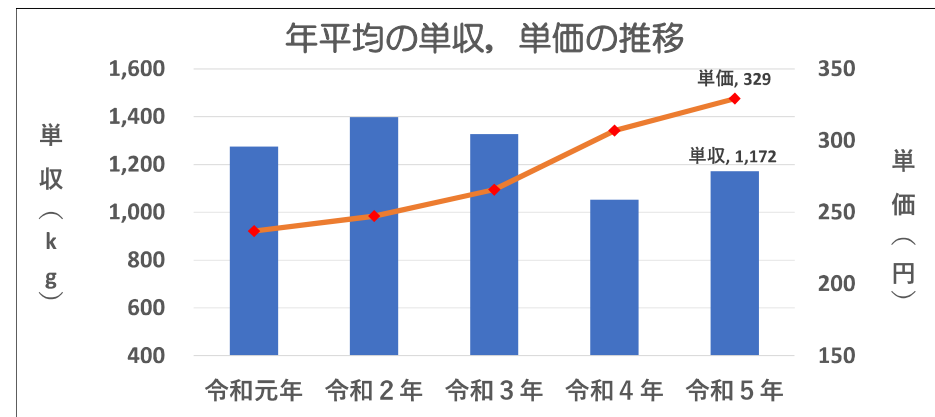
課題名① 地域の特性を生かした園芸産地づくり(根深ねぎ)(始良)						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5	2		⑦課題決定が総合的な根拠に基づくものか説明がない。	根深ねぎは2市1町いずれも作付けされており、始良管内においては唯一面積が増加している品目である。また、初期投資も比較的低く、需要が年中高い品目なので、新規就農者が選択するケースが増えていること等は冒頭でデータを示して説明した。関係者らの技術部会で複数回検討したうえで課題設定をしたことも説明したつもりだが。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であったか	3	4		⑦対象と地区は問題ない。しかし、平野部地区なのか高地地区の農業者を指導対象とするのか否か、また、単収が下がっている要因等、実証開始時点での検証の表現が不足しているように感じる。	単収が下がっているのは高温によるものであることは、十分に説明したつもり。高温対策として、今後の方向性を模索するために、従来の平野～台地部の対策と、高標高の牧草地などを想定した産地化を提案するための実証を展開した。今後もこの方向性で実証を進めていく。
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	5	2		⑦関係機関が連携している。関係者協議で課題、活動方法を決定しているが、その過程の説明がない。高温対策に係る実証圃の位置関係や気温等の表記がないので、比較対象が明確にされていない。経営診断を行っているが、地域単位、個人事業者が、いつ、どここの市場でどの程度の品質、量を出荷することを想定し、品種、育成方法等を検討し、どれだけ儲かるか表現がない。	関係機関・団体との協議を行ったうえで、活動方針や内容を決定してきた。しかし、一方で関係者からの提案がやや少ないと感じる。 基本的な農協共販を想定しており、出荷規格や目標(計画出荷量)などは決まっている。 実証に当たっては、試算したうえで設置を行っている。今後は試算データと実績データとを併記して示すようにしたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であったか	3	4			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	4			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか		7		⑦地域全体では活用できるか検証はされていないが、選択し活用することで効果があがるものもあると考える。担い手育成の成果が、設備投資や規模拡大の意向となっているのが適当であるか。それによっての効果で締めくくるべきではないかと考える	実証活動の方向性としては、平野部～台地(既存産地)における対策と、高地(今後の産地化の可能性)における生産性の実証、である。 本課題で対象となるモデル的な担い手2戸は「水稻を基幹品目とする農家」で、経営診断やカウンセリングを重ねて規模拡大を検討している。モデル農家として選定した基準は、根深ねぎの規模拡大を具体的な目標としていることや、水稻を基盤とし、労働力が十分確保できていることなど、である。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか		7			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	3		⑦地域における気候などに伴う条件によって、実証結果が有益に働くかは大きく変わるため、品種や対策資材の導入が全能ではない。担い手育成において、次期課題がいきなり労働力、助言指導及び技術向上となっているのは、実証に伴うものか理解できなかった。生産量増大＝利益増大の根拠を示されたら対策の根拠になる。人件費、資材コスト増では増益にならない。	根深ねぎについては、夏秋期をいかにしのぐか、が長年の主な課題となっており、そのための耐暑性品種や対策資材の検討であるため、指摘の意図が全く理解できない。 担い手の対象農家は前述のとおり「水稻を基幹品目とする農家」を前提としている。現在、最も積極的に根深ねぎの規模拡大を模索する農家群である。今後、彼らの規模拡大を進めるに当たっては、水稻との労働競合を避けるための労務管理(機械化も含まれる)が求められる。(この点も説明したのだが)
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	5			
全体的な意見・提言等					①根深ネギはJAあいらの基幹作物で、課題にあるように生産者は減少、単収も低下している。夏場の対策が急務となっていることから品種試験や夏場の育苗対策等、関係機関と一体となって取り組んでいただきたい。 ③課題設定理由等、重要なテーマに取り組んでいると認められる。専門性の高い部分に関しては引き続き検討を進められたい。 ④野菜全般において、高温対策は大きな課題である。伊佐市も根深ネギの産地でするので効果的な実証成果に期待します。 ⑤モデル農家は安定した生産ができ、経営安定に繋がっていると推察。若手や新規の生産者に向けての技術向上支援研修会やマニュアル作成を継続するなどで始良伊佐管内の地域の特性を活かした産地育成に繋がると感じた。 ⑥根深ねぎは近年高温対策が喫緊の課題となっているため、関係機関と協力しながら今後も課題解決に取り組んで欲しい。 ⑦県はどのような評価で、外部者の視点を求めているといった活動であると考えるが、内部で評価されたものを示したうえで外部評価者への評価依頼をされてはいいかがか。	①JAあいらはじめ、関係機関と連携をさらに強化し、課題解決に向けて実証活動、指導活動に取り組むたい。 ④～⑦活動の方向性をおおむね理解していただいたと解釈したい。次年度もこの方向性で関係機関・団体と協力しながら検討を進めたい。 ⑥の意見は今年度の根深ねぎの担い手支援活動の本質を代弁していただいた感があり、ありがたい。 ⑧ご指摘(一部やや理解不能)を謙虚に受け止め、次年度の活動計画を今一度精査したいと思う。

※「外部委員から意見・提言」に対して「改善策や普及指導計画への反映等」が運動するように記載してください。

課題名：地域の特性を活かした園芸産地育成 (根深ねぎ)

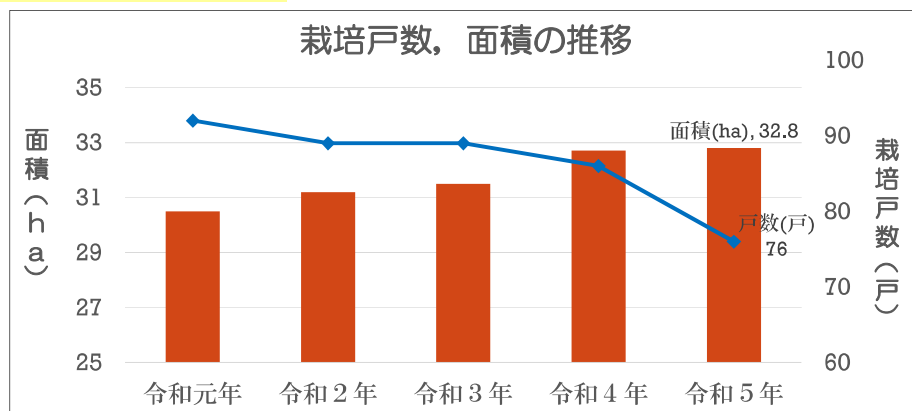
始良・伊佐地域振興局農政普及課

1, 産地の現状



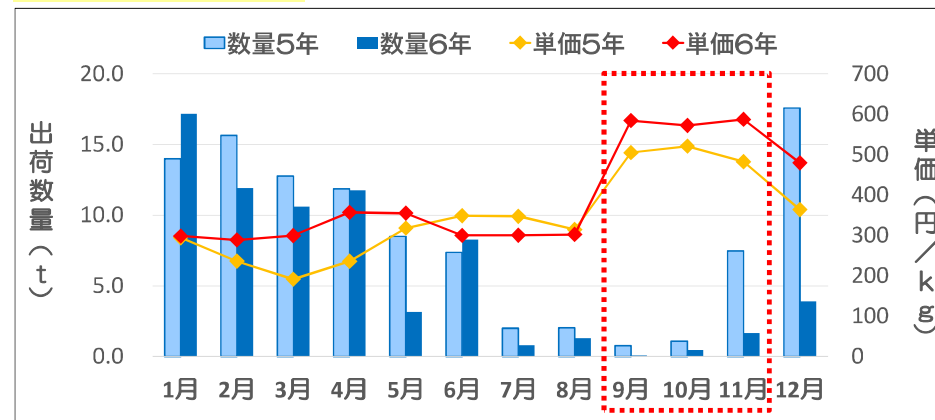
・単収は低下, 単価は上昇, 経費の高止まり → 経営の逼迫

1, 産地の現状



・戸数は減少, 面積は増加 → 一戸当たりの経営規模が拡大

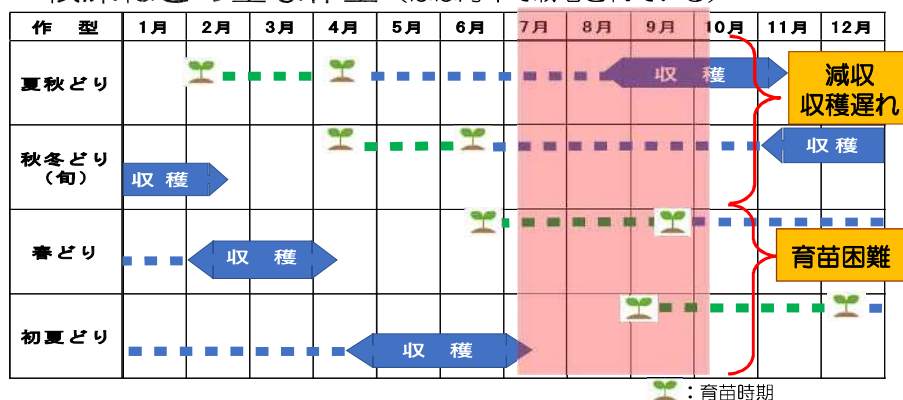
1, 産地の現状 出荷数量と単価の動向 (JAあいら)



・9~11月は高値 → 出荷の遅れから早春に値崩れの懸念

1, 産地の現状

根深ねぎの主な作型（ほぼ周年で栽培されている）



- 全ての作型で高温等による生産性の低下が見られる。

根深ねぎについてのこれまでの普及活動

- 春どり・初夏どり作型の安定生産
 - 抽苔対策：晩成品種の選定（平成30年～）
 - 夏秋どり・秋冬どり（夏越し作型）の安定生産
 - 病害対策：粒剤施用体系の検討
 - 雑草対策：除草剤，カバープランツの検討
 - 高温対策：耐暑性の高い品種の選定（令和3年～）
- 減収・収穫遅れ，育苗困難



- 品種比較は抽苔対策から高温対策に目的は変遷しながらも継続課題
- 病害対策，雑草対策はマニュアル化し栽培資料に掲載
- 高温による影響で夏越しが困難となる課題が緊急課題となってきた

推進体制：園芸振興協議会ねぎ班会



園振協始良支部ねぎ班会（令和6年7月3日）

- 園芸振興協議会始良支部に設置
- 市町，JA，農政普及課
- 地域での対策協議，現地研修会，対策実証など
- 県域との情報共有

2, 主な課題

【1】担い手の育成

産地を支える担い手農家の育成

- ① 規模拡大志向のモデル農家育成が必要
- ② 若手生産者らへの技術向上支援が必要

【2】高温等による生産性低下の克服

- ① 夏秋どり，秋冬どりの高温対策をどうするか
- ② 高温期の苗（春どり用）確保をどうするか

3. 活動成果

【1】担い手の育成 ①モデル農家の育成



モデル農家のほ場で指導農業者と現地検討

根深ねぎモデル農家を2戸選定
(規模拡大を志向する農家)

- モデル農家への定期的な現地指導とカウンセリングの実施
- 目標の設定と経営分析の実施
→→規模拡大に向けた検討

3. 活動成果

【1】担い手の育成 ①モデル農家の育成

モデル農家と産地リーダーとの現地検討(8月5日 湧水町)



- ・出荷調整や産地育成についてなど、幅広い情報交流がなされた。

3. 活動成果

【1】担い手の育成 ①モデル農家の育成

カウンセリングの成果と、農家の今後の意向

2戸とも規模拡大への意欲が増しており、出荷調整の機械導入を決めた。

農家Aさん：自己資金で出荷調整機を購入した。今後高性能収穫機を導入する意向で、拡大規模の試算を行っている。

農家Bさん：制度資金により収穫機と出荷調整機を導入
R6年現在60a→R8年100a→120aまで拡大する意向。

3. 活動成果

【1】担い手の育成 ②若手生産者の栽培技術向上支援



先進地視察研修(伊佐市8月16日)



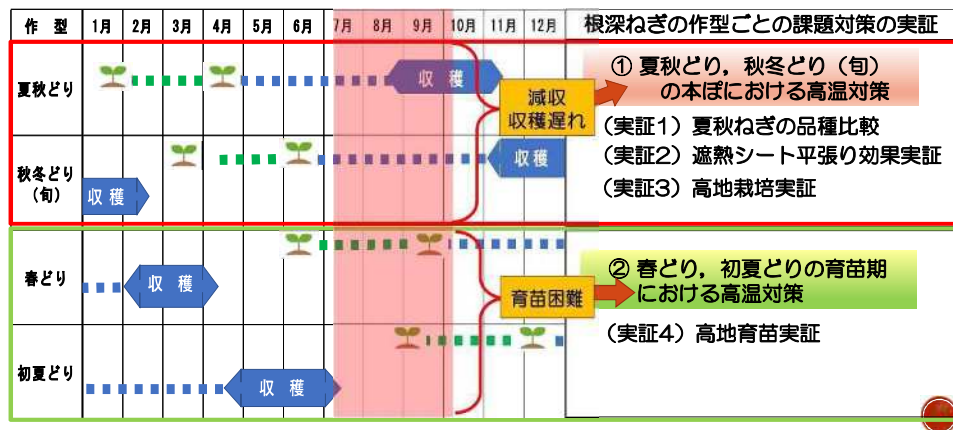
就農トレーナー現地研修(12月6日)

生産者の反応や意見

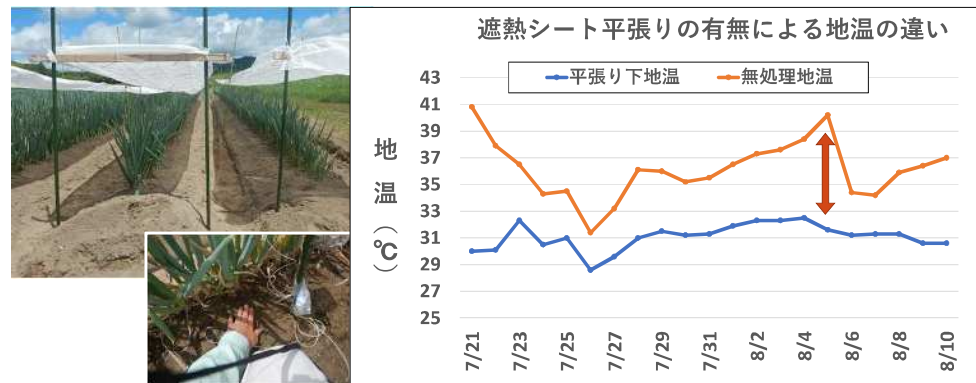
- ・「参考になった」等の感想とともに、
- ・「現地研修や個別指導の機会を増やして欲しい」
- ・「基礎技術等の資料が欲しい」, 等の要望があった。

3, 活動成果

【2】高温等による生産性低下の克服



3, 活動成果（実証2）遮熱シート平張りによる高温対策



被覆期間：7月5日～8月26日 資材名：ワリフ明涼（遮光率45～50%）

地下10cm地温（正午：晴天時）が約4～11℃低く推移

3, 活動成果

（実証1）夏秋どり品種 収量調査結果



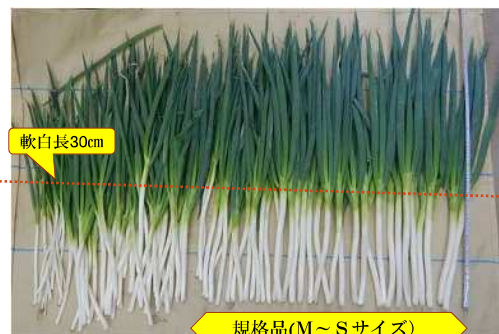
今作の条件下においては、「夏扇4号」が最も優れた。

3, 活動成果（実証2）遮熱シート平張りによる高温対策



収量差は16%であったが、単収が低く、所得は無処理区を若干下回った。

3, 活動成果 (実証3) 高地栽培実証



高地栽培の実績(10a換算)

項目	実績	備考
売上額(円)	1,707,000	1,000円/kg
出荷量(kg)	1,707	
生産費(円)	398,000	苗代, 資材費, 燃料費等
農業所得(円)	1,309,000	売上額-生産費

- 収穫がやや遅れたが、単価が良好な時期に出荷できた。
- 台風被害からの回復が低地よりも早かった。



3, 活動成果 (実証4) 高地における育苗実証



左: 従来の施設苗 右: 高地施設苗

高地育苗では軟弱徒長し, 苗質が悪化した

(原因)

- ・湿度が高い
- ・日照不足



3, 活動成果 (実証4) 高地における育苗実証

従来の育苗施設



高温期(5~9月)の欠株が多い
※チェーンボット育苗なので, 定植時にそのまま欠株になる

霧島市牧園の施設を利用
(大霧: 標高約800m)



高温期(5~9月)の欠株が少ない



4, 残された課題

【1】担い手の育成

1 モデル農家の育成

(1) コメ収穫作業との労働競合 …… 労働力の確保, 防除作業の省力化が必要。

(2) 規模拡大に向けた農地確保, 労働力確保, 機械化等
…… カウンセリング等による継続的な検討, 助言指導が必要。

2 若手生産者の技術向上支援

(1) 栽培技術が不安定 …… 個別指導, 技術情報等の更なる充実が必要。

4, 残された課題

【2】高温等による生産性低下の克服

①夏秋どり・秋冬どりの高温対策

- (実証1) 夏秋どりの品種比較 . . . 耐暑性に優れた品種の選定が必要。
- (実証2) 遮熱シート平張り効果実証 . . . 設置が簡易な手法の検討が必要。
- (実証3) 高地栽培実証 . . . 新たな担い手やほ場の確保が必要。

②高温期の苗確保（春・初夏どり用）

- (実証4) 高地育苗実証 . . . 他の手法の検討が必要。



5, 次年度の取組み

【1】担い手の育成

- 1) モデル農家の経営発展支援 . . . カウンセリングと経営診断
- 2) 若手生産者の技術向上支援 . . . 現地指導, 研修会,
マニュアルの作成, 等

【2】高温等による生産性低下の克服

- 1) 高温対策：夏秋どり・秋冬どり
 - ①適品種実証 . . . 耐暑性品種
 - ②地温抑制技術実証 . . . 遮熱シート畝間被覆
 - ③高地栽培実証 . . . 夏秋どり栽培適地の開拓
- ：春・初夏どり（苗確保, 新作型）
 - ④育苗培土の改善 . . . 根張りで耐暑性向上
 - ⑤長期栽培（新作型）実証 . . . 春どり確保

